

中国・インドの企業競争力に関する国際比較 分析

XU, Peng / TAKEUCHI, Norio / 馬場, 敏幸 / 田村, 晶子 /
KATO, Atsushi / 尾高, 煌之助 / BABA, Toshiyuki / 松島,
茂 / 胥, 鵬 / 今井, 健一 / ODAKA, Konosuke / 加藤, 篤史
/ NIKAIDO, Yuko / 二階堂, 有子 / MATSUSHIMA, Shigeru /
ESHO, Hideki / TAMURA, Akiko / 武智, 一貴 / IMAI, Kenichi
/ 絵所, 秀紀

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費補助金研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2009-05-22

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18402025
 研究課題名（和文） 中国・インドの企業競争力に関する国際比較分析
 研究課題名（英文） Comparative studies on competitiveness of Chinese firms and India firms
 研究代表者
 絵所 秀紀（ESHU HIDEKI）
 法政大学・経済学部・教授
 研究者番号：10061243

研究成果の概要：絵所は独立後インドの経済開発の軌跡を描き出し、経済自由化政策以降の経済パフォーマンスの特質を描き出し、中国との比較を試みた。胥・田村は、比較優位などの貿易理論に基づいて分析を試み、中国は韓国に次ぎ、ドイツと匹敵するほどに国際競争力を伸ばしたが、他方インドは国際競争力を伸ばしたものの、現段階ではかなり下位であることを明らかにした。馬場は重要なサポーティング産業であること金型産業について、中国・インドの発展段階を定性的・定量的に測定し、明確にした。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 4,400,000 | 1,320,000 | 5,720,000 |
| 2007年度 | 4,700,000 | 1,410,000 | 6,110,000 |
| 2008年度 | 3,800,000 | 1,140,000 | 4,940,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 12,900,000 | 3,870,000 | 16,770,000 |

研究分野：社会科学 A

科研費の分科・細目：経済政策

キーワード：(1)企業競争力 (2)国際比較 (3)中国(4)インド (5) BRICs

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国とインドの経済成長力の源泉と形態を明らかにすることが、研究開始当初のバックグラウンドとなっている。

(2) 独立後インドの経済開発の軌跡を描き出し、また1991年に着手された経済自由化政策への転換以降の経済パフォーマンスの特質を描き出し、中国との比較を試みることに。

(3) 企業の投資行動について様々な要因が影響を与えていると考えられている。設備投資は企業の競争力保持の重要な要因であるが、心理的要因の影響はデータの制約もあり、未だ十分に明らかにされていないという背景がある。

(4) 中国・インドの経済発展のために工業の発展は重要である。そのために自国の金型産業の育成・発展は重要な要因となる。しかしそれぞれの近年の発展状況は明確でない。

(5) グローバル化と経済自由化によってインド経済は対外的な影響を受けやすくなっている。

2. 研究の目的

(1) 比較優位などの貿易理論に基づいて、中国やインドの国際競争力を明確に測定すること。

(2) 歴史的観点からインド経済の特質とパフォーマンスを概観することによって、中国のそれとの比較のための論点を提示すること。

(3) 経営者の心理的要因が設備投資行動に与える影響を分析すること。企業の投資と心理的要因は、企業業績や競争力に重要な影響を与えるため、心理的な決定要因を明らかにする事を研究目的とする。

(4) 重要なサポーター産業である金型産業について、中国・インドの発展段階を定性的・定量的に測定し、明確にすること。

(5) インドの対外政策の変遷を概観したうえで、対外自由化がインド経済にどのような影響を与えたのか分析すること。

3. 研究の方法

(1) OECDおよびアジア主要国の貿易データを用い、貿易の一般均衡モデルに基づいて、国別の比較優位、すなわち、国際競争力を推定する方法をとっている。

(2) インド経済開発の特質と経済パフォーマンスに関連するこれまでの研究史をサーベイし、91年以降今日に至るまでのインド経済パフォーマンスの成果と問題点を同定すること。

(3) 中小企業の設備投資および業況判断に関するアンケートデータを用い、業況判断と投資行動の問題を panel data model を用いて推定した。

(4) 金型産業の発展段階測定基準を作成し、現地調査に基づき中国・インドの金型産業発展段階を定性的に測定した。また貿易統計に基づき中国・インドの金型産業の国際競争力を測定した。

(5) 対外自由化がインド経済にどのような影響を与えたのか、企業の生産性といったミクロ的な側面と、FDI と経済成長といったマクロ的な側面から検討した。

4. 研究成果

(1) 中国は韓国に次ぎ、ドイツと匹敵するほどに国際競争力を伸ばしてきた。他方、インドは国際競争力を伸ばしたものの、現在の段階ではかなり下位である。

中国とインドの国際競争力の推移

| Country | 1999 | 2003 |
|----------|------|------|
| US | 1位 | 1位 |
| Japan | 2位 | 2位 |
| Germany | 3位 | 3位 |
| China | 6位 | 4位 |
| Korea Rp | 5位 | 5位 |
| UK | 4位 | 6位 |
| India | 15位 | 13位 |

そして、国際競争力の源泉として、R&D、教育レベルと低賃金が挙げられる。

(2) IT ソフトウェア産業に依存したインド経済成長はエリート依存型であり、その結果平均的なGNPでは計測することができない構造的諸問題—人口問題、貧困問題、所得分配問題、教育問題—が生じている点を詳細に明らかにした。

(3) 設備投資行動にさまざまな心理的要因が影響している事を分析した。特に、製造業において長期的な業況の改善が投資行動にプラスの影響を与える点が明らかとなった。また、金融市場の状況の改善及び労働力を追加する意欲のある企業が設備投資を行う傾向にある点を明らかにした。

(4) 両国の金型産業の発展状況がかなり明確となった。金型産業の発展段階は両国とも近年発展が著しく、工業化に貢献しうるレベルに達しつつある。特に中国については国際競争力が急速に向上しており、世界的に中国が価格競争力で優位にある。一方、品質競争力ではまだ劣位にある。

(5) 対外自由化によって企業の生産性が向上したと一概に言えない。また、東アジア諸国のように、FDI 流入が GDP の成長をもたらすというような因果関係がインドの文脈では確認されなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 26 件)

- ① Akiko Tamura and Peng Xu(田村 晶子・胥 鵬)、China's International Competitiveness: Evidence from Bilateral Trade Patterns、ICES 2008 International Workshop "Innovation Systems and the Role of Foreign Capital: A Comparison of China and India" Proceedings、巻該当無、P78-P101、2009年、査読無
- ② 馬場 敏幸、インド地場金型産業の発展段階について その2:インド・ムンバイおよびプネにおける地場金型産業調査より、経済志林、第76巻 第2号、P1-P47、2009年、査読無
- ③ 絵所 秀紀、台頭するインド経済と東南アジアの経済関係—予備的概観—(1)、経済志林、77巻、P1-P64、2009年、査読無
- ④ Kazutaka Takechi and Shigeru Matsushima、Investment Behavior And Business Sentiments of Smalland Medium Enterprises、ICES Working Paper、144巻、P1-P22、2009年、査読無
- ⑤ 馬場 敏幸、インド地場金型産業の発展段階について その2:インド・ムンバイおよびプネにおける地場金型産業調査より、経済志林、第76巻第2号、P1-P47、2009年、査読無
- ⑥ 絵所 秀紀、離陸したインド経済、N I R A 政策レビュー、30巻、P2-P3、2008年、査読無
- ⑦ Hideki Esho、Comment on "The Political Economy of India's Economic Reforms"、Asian Economic Review、3巻、P334-P335、2008年、査読有
- ⑧ 胥 鵬、田村 晶子、日・米・中の貿易・直接投資パターンの比較分析、経済志林、75巻、P323-P361、2008年、査読無
- ⑨ 武智 一貴、中間財産業における直接投資の影響: 国内国外リンケージの存在、経済志林、75巻、P1-P20、2008年、査読無
- ⑩ 馬場 敏幸、インドの金型産業—現状および発展の経緯とビジネスモデル—、素形材、49巻3号、P14-P20(予定)、2008年、査読無
- ⑪ Toshiyuki Baba、Development Model of the Die and Mold Industry in Asia: A Comparative Analysis of Japan and Republic of Korea、Journal of International Economic studies、21巻、P125-P144、2008年、査読有
- ⑫ 絵所 秀紀、好調インド経済の「アキレス腱」、エコノミスト、2008年2月19日号、P46-P49、2008年、査読無
- ⑬ 松島 茂、中国における産業集積の内発的発展と企業成長—寧波の金型企業を中心に—、『社会科学』同志社大学人文科学研究所、第79巻、P109-P128、2007年、査読無
- ⑭ Yuko Nikaido with(Mandira Sarma) Capital Adequacy Regime in India: An Overview、ICRIER Working Paper、No. 196、P1-P28、2007年、査読無
- ⑮ Yuko Nikaido with(Mandira Sarma) Capital Adequacy Regime of India、Economic and Political Weekly、Vol.42 No.43、P66-P70、2007年、査読有
- ⑯ 馬場 敏幸、後発国の金型産業段階測定基準設定とインド地場産業発展測定の試み その1: インドの外資系自動車産業の金型調達事例より、経済志林、74巻・4号、P1-P30、2007年、査読無
- ⑰ 武智 一貴、生産技術とサプライヤーの関係: インドにおける工場視察による一考察、経済志林、74巻・4号、P31-P44、2007年、査読無
- ⑱ 絵所 秀紀、人間の安全保障-貧困削減の新しい視点、国際開発ジャーナル、巻該当無、P274、2007年、査読無
- ⑲ 絵所 秀紀、インド経済興隆のインパクト、「台頭する中国・インドのインパクトと日米経済関係に関する調査研究報告書」国際経済交流財団、巻該当無、P65-P78、2007年、査読無
- ⑳ 絵所 秀紀、インドにおける経済自由化のための経済制度改革のレビュー、「BRICs 諸国の経済改革と今後の課題に関する調査」日本総合研究所、巻該当無、P125-P162、2007年、査読無
- ㉑ Hideki Esho、The Results and Prospects of India's Economic Reform: A Brief Assessment、SPF India Study Group Working Paper Series No. 1、巻該当無、P1-P34、2007年、査読無
- ㉒ 絵所 秀紀、開発経済学の歴史から見えてくるもの、経済セミナー、633号、P40-P43、2007年、査読無
- ㉓ 尾高 煌之助、「いま歴史を生きる—総括コメントの試み—」、日本労働研究雑誌、49巻5号、P114-P118、2007年、査読原則有
- ㉔ 絵所 秀紀、インド経済の実力、東アジアへの視点、17巻、P25-P32、2006年、査読無

- ⑫ 絵所 秀紀、生まれ変わるインド経済、日本貿易月報、638号、P53-P58、2006年、査読無
- ⑬ 胥 鵬、田村 晶子、世界の工場 中国と世界との貿易・直接投資、中国経済研究月報、60巻・7号、P15-P28、2006年、査読有

[学会発表] (計 10 件)

- ① 馬場 敏幸、インド・中国の金型産業の発展段階と国際競争力：貿易統計による比較分析、国際開発学会 第19回全国大会、2008.11.23、広島修道大学
- ② Hideki Esho、Development Aid and Fellow-feeling, The Fourth Afrasian International Symposium, 2008.11.16, Ryukoku University, Kyoto
- ③ Hideki Esho、Some Characteristics of India's Development Path International Conference on "BRICS Nations and Korea", 60th Anniversary of Gyeongsang National University, South Korea, 2008.10.17, Gyeongsang National University, South Korea
- ④ 馬場 敏幸、インド地場金型産業の発展段階：自動車用金型を中心に、日本南アジア学会 第21回全国大会、2008年9月27日、東洋大学
- ⑤ 馬場 敏幸、中国・地場金型産業の発展段階に関する一考察：07年上海調査の結果を中心に、国際開発学会 第18回全国大会、2007年11月24日、沖縄大学
- ⑥ 絵所 秀紀、パネル・セッション「現代インド経済の課題と展望」でのディスカッサント、日本南アジア学会、2007年10月7日、大阪市立大学
- ⑦ 馬場 敏幸、インドの金型産業：自動車産業の事例より、日本南アジア学会 第20回全国大会、2007年10月7日、大阪市立大学
- ⑧ Kazutaka Takechi、What Drives Manufacturing FDI Wave in Asia?, Asia-Pacific Trade Seminars, 2007.7.8、上海財経大学
- ⑨ 絵所 秀紀、開発戦略と制度構築、日本学術会議プレシンプ「途上国開発のための国際協力のあり方」、2007年6月23日、東京大学
- ⑩ 今井 健一 (故人)、中国手機産業分工作体系的演変趨勢、資訊電子産業研究會、2007年6月3日、台湾・台北市

[図書] (計 3 件)

- ① Hideki Esho and Takahiro Sato eds.

The Sasakawa Peace Foundation, India's Globalising Political Economy: New Challenges and Opportunities in the 21st Century, 2009年、277

- ② 絵所 秀紀、ミネルヴァ書房、離陸したインド経済—開発の軌跡と展望一、2008年、279
- ③ 絵所 秀紀 (監修)、国際協力出版会、人間の安全保障—貧困削減の新しい視点一、2007年、274

6. 研究組織

(1) 研究代表者

絵所 秀紀 (ESHO HIDEKI)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：10061243

(2) 研究分担者

胥 鵬 (XU PENG)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：60247111
田村 晶子 (TAMURA AKIKO)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：30287841
武智 一貴 (TAKECHI KAZUTAKA)
法政大学・経済学部・准教授
研究者番号：80386341
馬場 敏幸 (BABA TOSHIYUKI)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：00359663

(3) 連携研究者

尾高 煌之助 (ODAKA KOUNOSUKE)
法政大学・経済学部・名誉教授
研究者番号：90017658
松島 茂 (MATUSHIMA SHIGERU)
東京理科大学・専門職大学院・教授
研究者番号：00339508
今井 健一 (故人) (IMAI KEN-ICHI)
アジ研・地域部・副主任
研究者番号：80450469
加藤 篤史 (KATOU ATUSHI)
青山学院大学・経営学部・准教授
研究者番号：00286923
二階堂 有子 (NIKAI DO YUKO)
武蔵大学・経済学部・講師
研究者番号：20396899